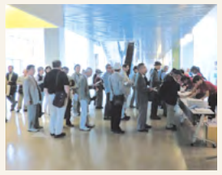
ご報告

大阪いばらきキャンパス特別見学ツアー（支援者様対象）を開催しました！

2014年度版「Donors Newsletter」でご案内いたしました、支援者様を対象とした大阪いばらきキャンパス（OIC）特別見学ツアーについてご報告いたします。

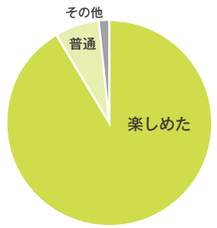
開催当日（2015年5月17日）は、273名の皆様にご参加いただきました。学生スタッフによるキャンパスツアーとOIC所属の教員による研究紹介を実施し、支援者の皆様に、本学への関心をさらに高めていただく機会となりました。

また、アンケートでは学生スタッフの説明に対する感謝のお言葉や、教員の研究紹介に対するコメントなど、数多くのご回答を頂戴いたしました。

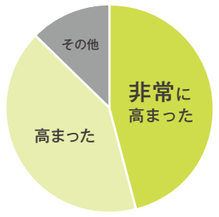


アンケート（回答数＝143）

［キャンパスツアーの満足度］



［立命館への関心度の変化］



参加者の皆様からのコメント

学生スタッフによるキャンパスツアー

- わかりやすく説明してくださり、楽しんで見学することができました。
- 丁寧、親切でよく勉強していて、母校への誇りが感じられました。
- 立派な施設であることに感動しました。

OIC所属の教員による研究紹介

- 熱心な講義で大学のよさが理解できました。
- 開かれた研究スタイルに触れることができました。
- 施設はもちろん、教授の皆様方からも沢山の事が吸収できるすばらしい環境だと思います。

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度から実施しています。

実績 126,960冊（2,275,732円） 2,177名
2013年4月～2015年11月末

活動事例

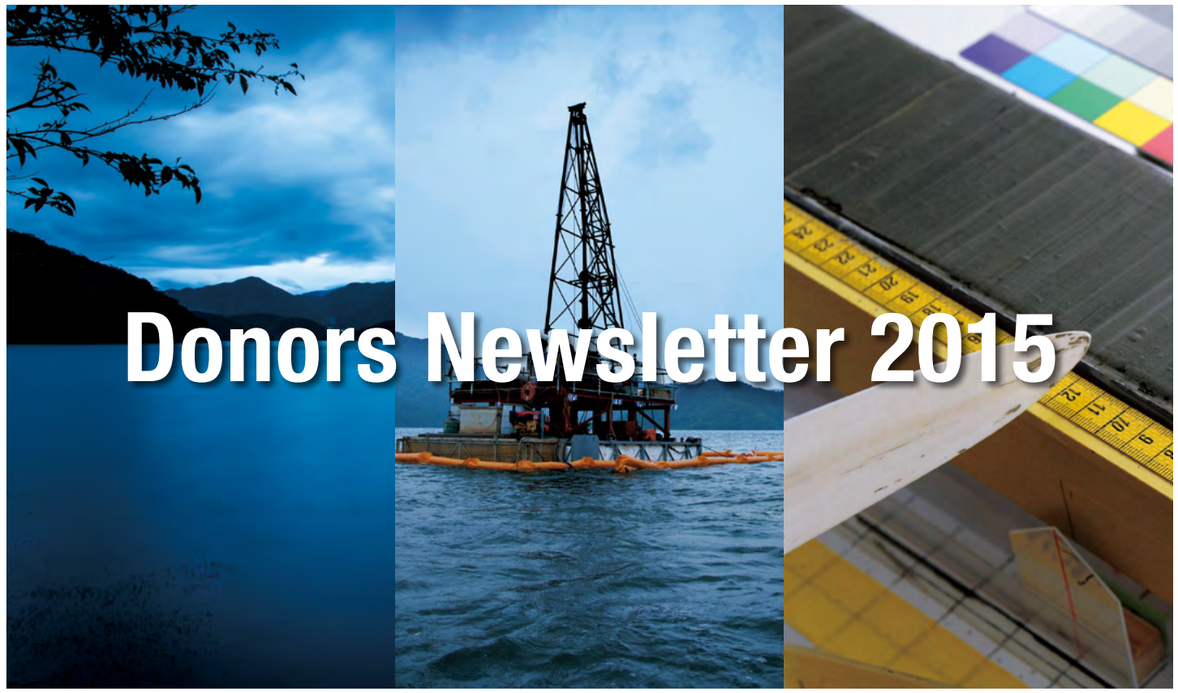
年度	場所	活用内容
2013年10月	立命館小学校	1～6年生の必読書（43冊）
2014年8月	立命館大学	衣笠・BKC図書館 英語多読本・日本語学習教材（307冊）
2015年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募って選定した図書（34冊）

check!

なお、購入された本には、古本募金により集まった寄付で購入したことが分かるシールを貼付しています。
手に取った学生・生徒・児童たちに、ご支援いただいた方々の想いが少しでも届いてほしいという願いを込めています。

RITSUMEIKAN

ご寄付のお礼と ご報告



RITSUMEIKAN
学校法人立命館 総務部 寄付事務局
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地 TEL 075-813-8110 FAX 075-813-8119 E-mail rgiving@st.ritsumei.ac.jp

立命館

OSAKA IBARAKI CAMPUS

ごあいさつ

立命館は、1869 年、近代日本の代表的な政治家である西園寺公望が私塾「立命館」を創設したことに始まります。その精神を中川小十郎が引き継ぎ、建学の精神を「自由と清新」としました。「清新」、言わばイノベーションは立命館の DNA であります。この精神こそ、今日に至るまでの立命館の改革の原点です。立命館は、前例のないことであっても、社会、そして未来が求めるものについては、果敢に取り組んでまいりました。2015 年４月には、立命館大学大阪いばらきキャンパスを開設しました。2016 年は、総合心理学部の開設、「キャンパスアジア・プログラム」の常設化、食科学部（仮称）の開設準備、そして世界有数の研究大学・オーストラリア国立大学（ANU）との「共同学士課程」設置に向けた準備も進めてまいります。「アジア、そして世界の未来のために何ができるのか、どのような貢献ができるのか」を常に考えながら、より一層の努力をしてまいる決意でございます。引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人立命館 理事長　長田 豊臣

GOOD DESIGN

立命館大学大阪いばらきキャンパスがグッドデザイン賞を受賞

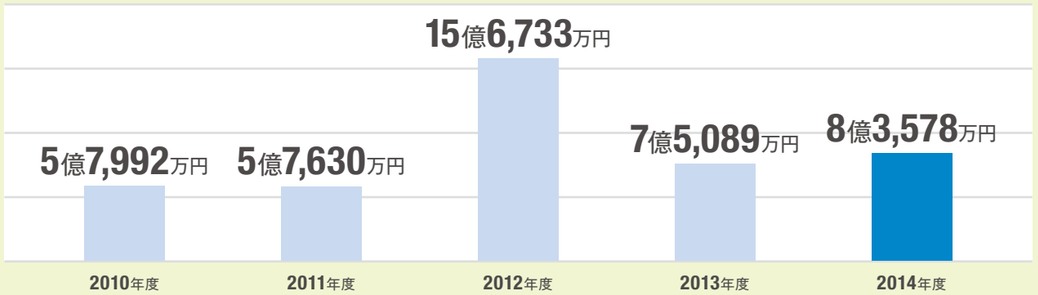
立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC）は、2015 年度グッドデザイン賞を受賞しました。キャンパス周囲の街の構造をうまく読み取り、配置計画に巧みに取り入れている点、新しさと景観的調和が成功している点が評価されました。

2014年度
実績報告

2014年度に皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。
昨年度は、総額約8.3億円の温かいご支援を頂戴いたしました。

Ⅰ.寄付金額の推移

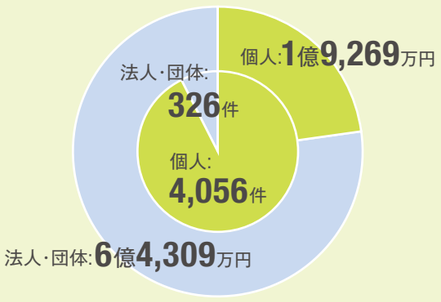
寄付受入状況の推移（2010～2014年度）



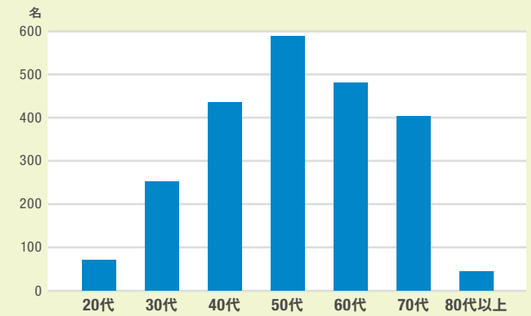
※2012年度は、新図書館建設にあたり、高額のご寄付がありました。

Ⅱ.2014年度 寄付受入状況

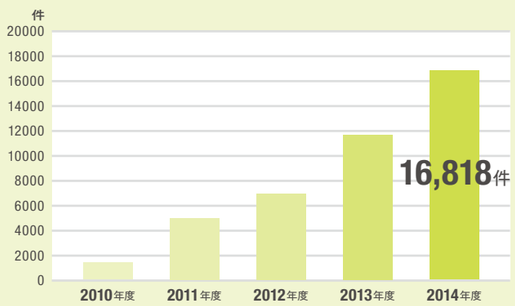
寄付者数と金額の内訳



個人寄付者の年代分布（立命館大学）

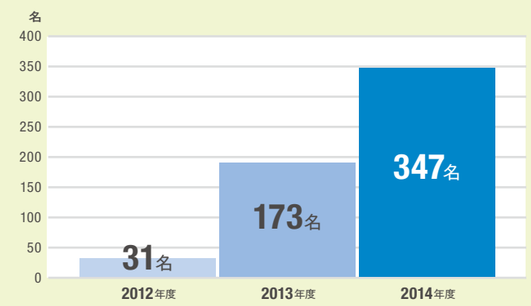


個人寄付の広がり



※個人寄付の延べ件数

継続的な寄付の広がり



※クレジットカード・口座振替による継続寄付

未来人財育成基金での取組み

校友一人ひとりの「未来の立命館は私が創る」という想いを繋ぎ、校友の支援で後輩が育ち、後輩の成長が母校を発展させるという広く・長い支援のサイクルを生み出したい。「未来人財育成基金」での取組みは、そのような考えからスタートした立命館大学校友会が主導する後輩・母校支援のかたちです。一口1,000円からできる本支援は、RFS・RFSリーダーズ（本基金の支援の輪を拡大すべく、各都道府県単位で募集活動を行う校友）による募集推進活動のもと、卒業生からの継続寄付を中心に支援の輪が広がっています。

実績 70,542,405円／2,402名（全8,939件）
2012年10月～2015年11月末時点　※法人・団体を含む

未来を切り拓く校友・学生

Momoko Hirano 01

平野 桃子 さん
（2012年 産業社会学部 卒業）
福岡県出身。2012年4月から岩手県大船渡市職員として勤務。友達に誘われ参加したボランティア活動をきっかけに、岩手県大船渡市で働くことを決意。現在、災害復興局 復興政策課で防災集団移転促進事業を担当している。

学生時代ボランティア活動で岩手県を訪れ、大船渡市内で七夕祭りのお手伝いをしました。地元の方と一緒に、お祭りの山車の飾りつけや組み立てを手伝う中、「家が流されちゃったんだよね」と平気な顔をして話す子どもたちと出会いました。ボランティア活動の経験のなかで「人の未来を作る仕事ってなんだろう？」と考えるようになっていました。

4回生になり就職活動を行うなかで、私の地元である古賀市や福岡市近郊に帰ることを最初に考えましたが、古賀市と大船渡市の市役所の採用日程はくしくも同じ日程でした。そこで思い出したのは、大船渡で出会った子供たちのことでした。「ここで大船渡に行かなきゃ、私じゃない」と大船渡市役所の受験を決意しました。

現在は、災害復興局 復興政策課で住宅等の高台移転の仕事に携わっています。被災された方の住宅再建を応援できるよう努めていきたいと思います。ボランティアは、被災地に来るだけでも十分です。来て、見て、感じて、それを周りの方に話すだけでもいいので、ぜひ大船渡に来てください。

Shunnosuke Hayashi 02

林 俊之介 さん
（スポーツ健康科学部4回生）
京都府出身。自身の夢であるモータースポーツを支えるトレーナーになることを目指し、実現に向けた取組みを続けている。2013年度から3年間、「夢応援型」の奨学金「立命館大学＋R（プラスアール）個人奨励奨学金」の採択を受ける。

幼い頃から野球を続けてきました。プロ野球選手を目標としていましたが右肩のケガにより、選手を続けることを断念しました。ケガで苦しむ間にトレーナーの方にとてもお世話になり、「自分もケガで苦しむ選手を助けたい」、そんな思いに駆られました。大学2回生の時に、NATA-ATCというアメリカの公認トレーナーの資格を知りました。また、モータースポーツのドライバーをサポートする体制がアメリカに存在することも知りました。小さい頃からモータースポーツが大好きだったので、トレーナーとして彼らを支えたいと考え始めました。ドライバーは過酷な状況で、何時間もレースカーを操り続けます。そんな「アスリート」をプロのトレーナーとしてサポートすることが今の私の夢です。

その目標を見つけてから、私は様々な行動を起こしてきました。アメリカのスポーツ医学を体験するため、海外インターンシップにも参加しました。そこで、ドライバーを支えるプロのトレーナーの方と出会い、「君ならできるよ」と強いお言葉をいただきました。この行動を起こせたのは、大学の「夢応援型」の奨学金による支援を受けることができたからです。多くの方の支えがあり今の私が存在します。これからも夢に向かって突き進む中で、周りの人たちを元気にできるような存在になりたいと思います。

特製立命館バッジプレゼント

累計2万円以上「立命館大学校友会未来人財育成基金」にご寄付くださった方々に感謝の気持ちを込めて、特製立命館バッジをプレゼントしています。

立命館バッジ

「RITSUMEIKAN」と「Beyond Borders」の文字を配し、スクールカラーを用いたデザインで作製いたしました。
「立命館大学校友会未来人財育成基金」への支援の広がりと共に、特製立命館バッジを付けて校友大会に参加される方々が増えています。

学生の活躍（2015）

#1 アメリカンフットボール部 American Football

パンサーズが甲子園ボウルを制覇　5年ぶり8度目の学生日本一

アメリカンフットボールの大学日本一を決めるパナソニック杯第70回毎日甲子園ボウルが12月13日、阪神甲子園球場で行われ、西日本代表の立命館大学パンサーズが28-27の1点差で東日本代表の早稲田大学ビッグベアーズを下し5年ぶり8度目の学生王者に返り咲きました。

「日本一になったことは純粋にうれしい。選手がよく頑張ってくれた」と米倉輝監督。逆転された直後にすぐさま流れを引き戻した選手の踏ん張りを勝因に挙げました。

#2 女子陸上競技部 Women's athletics section

全日本大学女子駅伝　史上初の5年連続10回目の優勝

10月25日、仙台市で行われた第33回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、立命館大学女子陸上競技部が史上初となる5年連続10回目の優勝を果たしました。

レースは、1区でトップに立つと、その後の区間でも2位との差を広げトップを独走、史上初となる全区間区間賞獲得での5年連続10回目となる優勝のゴールテープを切りました。優勝タイムの2時間2分52秒は大会新記録となりました。

#3 女子ホッケー部 Women's Hockey

全日本学生ホッケー選手権大会で10年ぶり3度目の優勝

10月30日から11月3日にかけて、大阪いばらきキャンパス（OIC）ならびに天理大学親里ホッケー場で開催された第37回女子全日本学生ホッケー選手権大会において、立命館大学女子ホッケー部が10年ぶり3度目の優勝を果たしました。決勝の山梨学院大学戦では、1-1の同点のままフルタイムとなり、タイブレイクのシュートアウト戦に突入。トータルスコア5-4で競り勝って、10年ぶりの優勝を決めました。

#4 探検部 Exploration unit

インドネシアで前人未到の洞窟に挑む　～新たな洞窟を発見～

8月18日から9月21日かけて立命館大学探検部は9年ぶりの海外遠征としてインドネシアのスンバ島で探検調査を実施しました。

この調査では、62の前人未踏の洞窟を発見し、そのうちの20について詳細な地図の作成を行いました。測量と同時に虫などの生物や化石の採集、水質調査や写真撮影を行い、国立公園やインドネシアの政府機関への調査報告会を開催しました。

今後は、今回の調査で採集した資料も含めて調査・研究を続け、洞窟が現地の財産となるよう活用方法を模索していきます。

#5 硬式野球部 Baseball

桜井俊貴さんが読売ジャイアンツからのドラフト1位指名を獲得

2015年のドラフト会議で、桜井俊貴さん（法学部4回生）が、読売ジャイアンツからの1位指名を獲得しました。2015年の明治神宮野球大会、1回戦の東北福祉大学（東北地区代表）との試合では、大会記録タイとなる18奪三振の好投を見せました。

#6 将棋研究会 Japanese chess

第11回富士通杯争奪全国大学対抗将棋大会優勝

9月4日から9月6日にかけて開催された第11回富士通杯争奪全国大学対抗将棋大会において、立命館大学将棋研究会が2年ぶり5回目の優勝を果たしました。本大会は全国8地区の予選を勝ち抜いた10大学の総当り戦で、大学将棋では冬の王座戦と並ぶ重要な団体戦の大会です。

未来を切り拓く研究者

太古の歴史が刻まれた「年縞（ねんこう）」が指し示す未来の気候変動

立命館大学 総合科学技術研究機構
古気候学研究センター長
Takeshi Nakagawa
中川 毅 教授

地球の温度は、今後100年間に最高で5℃近く上昇するという予測がある。

「これほど急激な温暖化は現実的ではないという人もいますが、荒唐無稽とまでは言えません。およそ1万1700年前、氷河期が終わる時期、グリーンランドではわずか数年の間に5～7℃も気温が急上昇したのです」

そう語るのは、古気候学研究センターのセンター長を務める中川毅だ。「過去に起こった気候変動を明らかにすることは、未来の気候変動を予測する上で、時に現代気候学以上に有益な知恵を与えてくれる」と中川は言う。だがどうやって太古の気候変動を知るのか？中川は、それを可能にする強力な「ものさし」を示したことで世界に名を知られる。それが、福井県にある三方五湖の一つ、水月湖の湖底から採掘された「年縞」だ。

季節ごとに土砂やプランクトンの死骸などが湖底に積もって層状になり、縞模様をつくる。年縞は、時の流れを形に留めた自然の歴史書のようなものだ。周囲から流れ込む大きな河川がなく、水深が深く、湖底に生物が生息しない。そうしたいくつかの好条件が重なった水月湖では、堆積物がかき乱されずに積もり続け、極めて精緻な年縞が形づくられた。中川はこれまでの調査で、95m、約20万年分に相当する堆積物を湖底から採集している。2012年には、この完璧な年縞が、国際的な研究グループによって地質的・歴史的な遺物の年代を決める世界標準「IntCal（イントカル）」に採用された。すなわち、過去の年代を特定する「ものさし」として世界に認められたのだ。

水月湖の年縞の他にも、グリーンランドの氷床から採取されたアイスコア、中国の鍾乳洞の鍾乳石など、信頼性の高い「年代ものさし」がいくつかある。中でも「『グリーンランド』と肩を並べる『年代ものさし』を確立したい」、中川は長らくそう目標に掲げてきた。「過去の気候変動を研究する者にとって、グリーンランドのアイスコアは、絶大な信頼と権威を持っています。しかし一地点のものさしだけに頼るのは、学術的な説得力に欠ける。グリーンランドに匹敵する信頼性の高いものさしがあれば、これまでとは比べものにならないくらい多くのことを明らかにできるはずです」

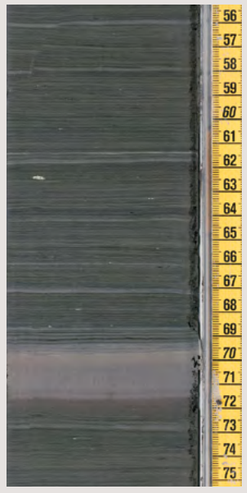
水月湖の年縞の場合、1万年ひるがえる際に生じる誤差が±29年。数百年単位で誤差を生じることもある従来のモデルと比べ、その精度は群を抜いている。圧倒的に高精度な「年代ものさし」として、水月湖の年縞が存在感を際立たせたのは間違いない。

「目標は、年代ものさしをつくることではなく、それを使ってさまざまな地域や年代の気候変動を解明すること」と、中川。年縞の1年分は、わずか0.6～0.7mm。その1枚1枚に含まれる放射性炭素（^{14}C）濃度から年代を測定する。その他、火山灰や砂などから噴火や地震、台風の跡を発見したり、また花粉を分析し、植生を明らかにすることで、気候を突き止める。

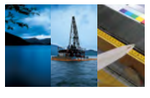
中川が注目するのは、氷河期の末期に起こった温暖化イベントだ。グリーンランドのアイスコアと水月湖の年縞を分析すると、グリーンランドでは、1万4700年前に急激な温度上昇が起こり、やや下降した後、1万1650年前に再び気温が急上昇したことが分かる。一方、水月湖ではグリーンランドとは異なる気温の上昇曲線を描くことが年縞から分かった。グリーンランドより300年も早く、約1万5000年前から温暖化が始まっていたのである。温暖化は必ずしも世界同時的に起こったものではなかった。中川の発表は、世界に大きなインパクトを与えた。

さらに中川は、この氷河期末期に起こった気候変動と、21世紀の人類が直面している地球温暖化に類似点を指摘した。「今世界で大洪水が頻発していますが、年縞を見ると、氷河期の終わりにも同じ現象が起きていることが分かります。年縞をさらに分析することで、近い将来起こり得る気候変動や自然災害を予測できるかもしれません」

湖の底に眠っていた数万年前の過去から、未来を見すえるという壮大な研究に挑む。



年縞：白っぽい層と黒っぽい層のセットで1年間の年縞を形成。1年間の厚さは0.6 ～0.7mm。不規則な縞は地震や火山噴火、洪水などの天変地異が起こったことを表している。年ごとの層に含まれる放射性炭素や花粉を詳細に調べることで、古代の気候、気温変動などさまざまな情報を読み取ることができる。



〈表紙写真〉
本報告書の表紙は、立命館大学古気候学研究センター長 中川毅 教授の研究に関する写真です。（左）福井県三方五湖のひとつ、水月湖。（中央）水月湖での年縞サンプル採取の様子。（右）採取された年縞。きれいな縞模様が見て取れる。
写真提供：宗野歩（撮影）、東京書籍／中央、山根 一眞／左